

Lotus1-2-3 (R2.3J) バージョンアップ情報

1. Lotus1-2-3 R2.3J の新機能

次のような機能が新しく追加されました。

(1) 動作環境の拡大

従来よりのフロッピーディスクからの起動、ハードディスクからの起動に加えて、RAMディスクにインストールをして起動することができるようになりました。また、最初に使用するとき、会社名と個人名を登録するシステムも追加されました。

(2) 設定シート内での設定及び変更

印刷やグラフなど8種類の各設定シート内で、メニューより指定できるのと同様の設定が直接行えます。また、ポップアップウィンドウの採用により、効率的に設定したり、設定を変更することも可能です。従来どおりのメニューによるデータ設定も可能ですので、すでに使用しているマクロを修正する必要は少ないでしょう。

(3) 印刷メニューの追加

印刷メニューの中に、新しく「P印刷→Bバックグラウンド」などのメニューが加わり、次のような機能が使用できるようになりました。

① 用紙サイズを選択

メニューの中から、印刷を行う用紙の選択ができるようになりました。

用紙の種類は、フリー、A4、A3、B5、B4、はがき、10インチ連続用紙、15インチ連続用紙の8種類から選択できます。

また、用紙選択後、Lotus1-2-3は現在設定されているマージンと間隔で印刷が行えるかどうかのチェックを行い、印刷ができない場合には、行末位置と頁行数を変更し、メッセージを出します。選択した用紙サイズは、ファイル保存時に保存されます。

② 用紙サイズによる頁枠表示

印刷範囲を指定した後、1ページに印刷される範囲を、用紙サイズをもとにページ枠をつけワークシート上に表示します。

頁枠は、出力結果が見やすいように自動的に計算された最適値にもとづいて設定されます。プリンタで印刷できる最大値で設定されるものではありません。

③バックグラウンド印刷

メモリ常駐のプログラムによるバックグラウンド印刷をサポートします。Lotus1-2-3を起動する前にバックグラウンド印刷用のプログラムをメモリに常駐させておくことで、ワークシート上での作業を中断することなく、印刷を行えます。バックグラウンド印刷はハードディスク、またはRAM上での使用のみ利用可能です。

④開始ページ番号の指定

ヘッダ・フッタの指定に「#」の記号でページ番号を指定している場合に、開始ページ番号が指定できます。

⑤フォントの選択

使用しているページプリンタが複数のフォントを持つ場合、強調属性に特定のフォントを割り付けることにより、同時に2種類のフォントを使用して印刷できます。また、フォントの設定は、ファイル保存時に保存されます。

(4) デリートキーによるデータの削除

メニューから「R 範囲」→「E 削除」を選択する代わりに、デリートキーによりカレントセルのデータを消去できます。

また、ワークシートと同様に、設定シートでもデリートキーが使用できます。

範囲指定をする項目と文字列を入力する項目でデリートキーを押すと、設定内容が消去されます。消去した内容は再表示できません。

(5) 裏白ディスプレイモード（NEC, IBMのみ）

画面の背景を白にして、画面表示できます。

グラフを表示した場合も、背景が白になります。背景を白にするか、または黒にするかは、環境設定で選択します。

(6) MS-Windowsへの対応

日本語 MS-Windows3.0の拡張モードで、Lotus1-2-3 R2.3Jを使用することができます。また、Lotus1-2-3 R2.3J用のアイコンも用意しています。

(7) 英語版とのデータ互換

ファイル名の拡張子に「*.wk1」を指定することで、直接書き出すことができます。従来のようなファイル変換する必要がなく、英語版とのデータ互換が簡単に行えます。

2. Lotus1-2-3 R2.3J の機能強化

Lotus1-2-3 R2.3Jでは、従来に比べて次のような機能が強化されています。

(1) 初期設定と環境設定の簡便化

複数の画面で行っていた初期設定と環境設定を、それぞれ1つの画面で行うことにより、導入を容易にしました。

また、必要な項目だけを選んでインストールすることができます。

(2) レーザプリンタのサポート

レーザプリンタ独自の制御コードの利用による印刷速度と印字品質が向上しました。特に、罫線とグラフの印刷において有効です。

また、メニューより印刷する用紙方向の選択、印刷終了時の排紙設定も行えるので使いやすくなりました。用紙方向の選択は、ファイル保存時にファイルに保存されます。

(3) リンク式の設定

現在存在しないファイル名、または範囲名を含むリンク式を入力できます。セルの値は入力時にエラーになりますが、ファイルを保存、または範囲名を設定後に再計算を行うと正しく計算されます。

(4) 123. CNFファイルへの保存

次の各設定が新たに規定値ファイル（123. CNF）に保存されます。

用紙サイズ	印刷の用紙方向
フォント設定	印刷範囲の頁枠表示
印刷サイズの自動調整	印刷終了時の排紙
ファイル呼出し時と保存時の拡張子	

(5) ワークシートの印刷メニューと印刷メニューの共通化

「ワークシート→全体→規定値→印刷」のメニューと「印刷」のメニューが共通化されました。例えば、印刷装置の変更は、どちらでも変更可能です。

(6) 紹介ディスクとヒント集

Lotus1-2-3 R2.3Jの内容にあわせて、紹介ディスクの内容も一新し、従来のマニュアルに加えて、新しく「ヒント集」が付属されました。

このヒント集は、目的に応じたLotus1-2-3の用例をワンポイントで解説した、すぐに利用できるマニュアルです。

3. Lotus1-2-3 R2.3J の変更点

Lotus1-2-3 R2.3Jでは、従来のLotus1-2-3と比べて次の変更点があります。

(1) 印刷終了時の設定リセット

印刷終了時に、プリンタ側の漢字モード、行ピッチ、文字ピッチの各設定をリセットします。

(2) データ入力中のエラーの取り扱い

メニュー選択中でのデータ入力（範囲名など）でエラーが起きた場合、従来は **入力** モードに戻っていましたが、エラーの種類によっては、**ESC** キーによりエラー状態を解消後、再入力できます。

(3) ドライブ準備の取り扱い

ファイル呼出しなどで、ディスクの入っていないドライブを指定した場合、従来は「ドライブの準備ができていません」のメッセージの後、デフォルトのドライブをカレントドライブに変更していましたが、再度同じドライブにアクセスするよう変更されています。

※ファイル呼出ドライブがBドライブに設定してあるシステムの起動時にディスクが挿入されていないと、カレントドライブを起動ドライブに変更していたが、再度アクセスするようになりました。

4. 以前のバージョンで作成したファイルの印刷

(1) 用紙サイズ

バージョンR2.2Jと同じ印刷結果が必要な場合は、用紙サイズで「フリー」を選択してください。

(2) グラフ

バージョンR2.2Jのグラフ印刷は、メニューに表示されるサイズよりも小さく印刷されることがありました。

この問題が修正されたため、ほとんどのページプリンタで、グラフはメニューに表示されるとおりのサイズで印刷されます。

(3) 制御文字列

バージョン R2.2Jで作成したファイルに制御文字列が入っている場合、このバージョン R2.3Jでは正しく印刷されないことがあります。

デリートキーを使って制御文字列を削除してください。ページプリンタを使用している場合は、制御文字列のかわりにフォントを使用してください。

(4) マクロ

バージョン R2.2Jで使用していたマクロによる印刷命令は、そのままでは、正しく機能しないことがあります。マクロで、頁行数や行末位置に値を入れるマクロを使っている場合は、用紙サイズは「フリー」を選択してください。

(5) 印刷規定値の更新

印刷の設定シートで、「6.規定値の更新」の項目はスペースキーで実行されます。リターンキーを押すと、現在の設定内容が確定され、規定値の更新は行われません。

(6) 印刷の設定シート

印刷の設定シートで〔桁数 行数〕の項目は、出力範囲を設定すると自動的に計算され、値が表示されます。自動調整が有効の状態では、〔桁数 行数〕の値が行末位置や頁行数に収まるように文字ピッチ、行ピッチを調整してください。この欄に表示される値は編集できません。

(7) プリンタ切換機

手動の切り換えのプリンタ切換機を使用している場合は、バックグラウンド印刷時に作成されるスプールファイルがすべてプリンタに送られたことを確認してから、他のコンピュータからプリンタを使用してください。

自動切り換えのプリンタ切換機を複数のコンピュータで使用している場合、バックグラウンド印刷の途中で切り換わってしまうことがあります。このような場合は、正常に印刷されないので、バックグラウンド印刷は使用しないでください。

Lotus1-2-3 R2.2Jから印刷機能を向上させて

Lotus1-2-3 R2.3Jへバージョンアップした。

マイナーバージョンアップのようだが、かなりの部分で

改善されて、使いやすくなっている。

Windows版Lotus1-2-3の登場

新しいパソコンの環境として日本語MS-Windows環境が広まろうとしています。GUI（グラフィカル・ユーザ・インターフェース）による操作性（マウス操作、アイコン操作）、マルチタスク機能、強力なグラフィック機能による高度な表現力と多彩な出力など今までのMS-DOSにない操作環境であります。

この日本語MS-Windows環境で、動作する表計算ソフトとしてマイクロソフト社のExcel（現在はVer3.1）が登場しました。1年ほど遅れて、Lotus1-2-3のWindows版として、1-2-3 /Windows R1.0Jがリリースされました。

1. 1-2-3/Windowsの特長

1-2-3/Windowsには、次のような特長があります。

(1) マルチワークシート

8192行、256列の巨大ワークシートを、1ファイルにつき最大256枚まで作成できます。

例えば、1年の各月のフォーム12枚を3次元の串刺し集計して、年間集計を求めることが簡単にできます。

(2) マルチファイル

ワークシートファイルやグラフを同時に複数のウィンドウに表示します。その大きさや位置を自由に変更できます。使用しないウィンドウはアイコン化し、マウスのクリックで元の大きさに戻せます。

(3) データベース機能

① 基本データベース

ワークシートの中で、1項目511バイト、最大8191件、256項目のデータベースが作成できます。条件検索／抽出／削除／更新／追加機能などをサポートし、複数のデータベーステーブルの結合などリレーショナル機能もサポートします。

② データ処理機能

255条件による50音ソートや日付時間にも対応したデータの埋め込み機能の他、クロス集計も可能な演算表、回帰分析機能、行列計算などをサポートします。

③ 外部ファイルを直接アクセス

1-2-3/Windowsの中から、直接dBASE IIIなどで作成された外部のデータベースファイルを読み書きできます。

1-2-3/Windowsに添付のサンプルドライバを使用すると最大約3億件のデータを処理可能になります。操作コマンドは問い合わせコマンドを使用できるので新たに外部データベースのための操作を学習する必要はありません。

(4) ソルバー機能

設備投資や経営計画などある条件の中で、最適解を計算するソルバー機能をサポートします。

ワークシート上に設定した変数問題のモデルを使って、シミュレーションを行い、最適解答を見つけ出すことができます。複雑で面倒なシミュレーション計算や予算作成が可能です。

(5) 表計算DTP

文字のフォント、大きさ、カラー、セルの高さや列幅の変更ばかりでなく、グラフやFreelanceなどで作成したCGMファイルをワークシート上に加えることができます。

また、印刷イメージそのまま画面で編集を行えるWYSIWYG (What You See Is What You Get) 機能や印刷前に印刷イメージを画面で確認できる印刷プレビュー機能、用紙サイズに合わせて印刷イメージを自動拡大/縮小する機能、ヘッダ・フッタやページ番号の指定など印刷設定の名前付き保存、画面上で用紙の境界が表示される機能など表計算によるDTP (Desk Top Publishing) を実現しています。

(6) グラフ機能の強化

① グラフギャラリー

グラフ種類のダイアログボックスには、種類の切り替えボタンで選択したグラフギャラリーが表示されます。

代表的なグラフはこの表示例を見ながら設定します。

折れ線、面、棒、円、XY、株価、混合、レーダチャート、立体面、立体線、立体棒、立体円などの代表的なグラフをサポートしています。

また、従来のグラフに加え、混合グラフ、3次元グラフが追加されました。さらに、グラフに数々の装飾機能を組み合わせることにより、200種以上の表現が可能です。

② グラフウィンドウ

データ範囲を指定して新しいグラフを作成すると、ワークシートと独立したグラフウィンドウが表示されます。グラフウィンドウ上で文字や矢印、多角形などの図形の追加、文字や図形の回転やカラー変更、塗りつぶしなどの作図が行えます。

③ 貼り込み機能

ワークシートにグラフや図形ファイル（CGMファイル）を自由に貼り込みます。貼り込みした図形の大きさの変更やその上での作図が行えます。

(7) GUI（グラフィカル・ユーザ・インターフェイス）

① キーボードとマウスに対応

マウスによる操作を実現。また、キーボードだけでも同様の操作ができ、ウィンドウの拡大、縮小、リクップボードによるセル内容の切り抜きや貼り付けなど編集機能が向上しました。

② プルダウンメニュー、ダイアログボックス

MS-Windowsに対応したプルダウンメニューを採用しました。また、ダイアログボックスにより、関連する設定をまとめて表示／変更できます。

③ スマートアイコン

使用頻度の高いコマンドやマクロをアイコン化して登録しておくことで、コマンドを瞬時に実行することができます。登録するコマンドやデザイン、表示位置を自由に選択できます。

(8) 互換性

① ファイル互換

1-2-3/WindowsのWK3/WK1ファイルは、メインフレーム版、SPARC版、OS/2版のLotus1-2-3と互換性があります。

Lotus1-2-3 R2.3J/R2.2JのWJ2ファイルの直接読み込み、直接書き込みが可能です。

② メニュー互換

MS-DOS版やOS/2版のLotus1-2-3と互換性のある「ロータス互換メニュー」を用意しました。マクロはこのメニューの上で操作しますから今までのマクロ資産を最大限に活かします。

2. 1-2-3/Windowsの動作環境

1-2-3/Windowsは、日本語 MS-Windows3.0上で稼働します。1-2-3/Windowsを動作させる環境としてMS-DOS以外に日本語MS-Windows 3.0が必要です。

日本語MS-Windows 3.0は、MS-DOS上でG U Iやマルチタスク環境を提供するシステムソフトウェアです。MS-DOS上でMS-DOSとともに稼働します。

日本語MS-Windows 3.0は、動作環境としておおよそメモリを 2MB、ハードディスクの空き容量が20MBを必要とします。

必要なメモリやハードディスクの容量は、日本語MS-Windows 3.0を発売しているメーカーによって異なる場合があります。

1-2-3/Windowsを動作させるには以下の環境が必要です。

- O S : 日本語MS-Windows 3.0及びこれに対応するMS-DOS
※ない場合には、別途購入する必要があります。
- パソコン本体 : 80286、80386SX、80386、80486 C P Uを搭載し、
日本語MS-Windows 3.0が稼働するパーソナルコンピュータ
- メモリ : 4 M B 以上 (日本語MS-Windows 3.0の動作環境を含む)
- ハードディスク容量 : 6 M B (日本語MS-Windows 3.0の動作環境を含まず)

The image shows a screenshot of a spreadsheet application window titled "SAMPLE.WK3". The window contains a grid with columns labeled A through G and rows labeled 1 through 6. The grid is currently empty. The window has a standard title bar with a close button (X) on the left and a scroll bar on the right.

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2							
3							
4							
5							
6							